

日本で最も熱いフェスティバル・いよいよ開幕

第34回霧島国際音楽祭2013

今年も鹿児島が音の響きに包まれる季節が巡ってきました。
魅力あふれる音楽の扉を開けてみませんか。



毎年表情を変える 霧島国際音楽祭

今年で34回目の開催となる霧島国際音楽祭は、昨年逝去されたゲルハルト・ボッセ氏を霧島に案内した鹿児島の教育者が、講習会の開催を依頼したことがきっかけで始まりました。第1回目は昭和55年に霧島国際音楽祭・講習会という名称で、ユースホテルで家庭的な雰囲気の中、開催されました。その後、クラシックの本場であるヨーロッパまで行かずにはトップレベルのアーティストから技術を学ぶことができる場として知名度を上げていきました。毎年、数多くの観客と受講生が音楽を通じて充実した夏の期間を過ごしています。

霧島国際音楽祭は、開催の都度内容を凝らし、県内各地でさまざまな音楽を提供しています。平成21年からこの音楽祭は、世界への発信・地域密着・フェスティバル性を3つの柱として打ち立て、これを継続しています。鹿児島で行われる音楽祭を楽しみ、クラシック音楽に興味を持つきっかけにしてみたいいかがですか。

堤剛音楽監督に聞く

～霧島国際音楽祭の見どころ・聴きどころ～

今夏も「日本で最も熱いフェスティバル」が雄大な自然に囲まれ、音楽とのハーモニーを奏でる霧島の地にやって参ります。故ゲルハルト・ボッセ先生が崇高なお気持ちで34年前に始められたこの音楽祭も、今や世界各国から注目され、ますますの高水準と密度の濃い内容を持った国際音楽祭に成長いたしました。地域の皆さまの温かい応援とサポートに、心を込めてお礼を述べさせていただきますとともに、私どもの熱の入った演奏を堪能していただけたら幸甚に存じます。



堤剛：チェロ奏者。2001年より霧島国際音楽祭音楽監督を務める。サントリーホール館長。桐朋学園大学特任教授。芸術院会員。

© 鍋島徳恭

マスタークラス(講習会)で磨く

例年国内外から多数の受講生が参加する講習会には、国内はもとより、台湾や韓国をはじめとするアジアの各国・地域からも参加しています。受講生はただレッスンを受けるだけでなく、他の受講生のレッスンを聴講することもできます。また、同じ目標を目指す仲間たちとの交流や講師、アーティストが出演するコンサートへの鑑賞、受講生自らロビーコンサートに出演することなどで密度の濃い、充実した講習会を受講することができます。昨年は157人が受講し、貴重な時間を過ごしました。

霧島で充実した講習を受け、学んだ受講生たちの多くは国内外で活躍する世界的な音楽家へと成長し、教える側、演奏者として現在の霧島国際音楽祭を支えています。講習会は技術を習得するだけの場ではありません。世界のトップアーティストが、国内外から集まった志の高い受講生に実践指導する「学び」の場は、音楽の専門知識がなくても一見の価値があります。レッスンの様子は別のコースを受講する他の受講生や一般の方にも公開しています。

